協働のまちづくり推進委員会（第１回）結果概要

日時：平成 23 年４月 18 日（月）18:30～20:10
場所：八戸市庁本館　３階　議会第三委員会室

本会議の結果概要を、次のとおり報告する。

■ 会議概要について

○ 平成 23 年度奨励金対象事業　書類審査について

・平成 23 年度奨励金対象（２件）の書類審査、及び意見交換を実施。
・上記意見交換を基に、市民奨励金公開プレゼンテーション審査会（５/14 開催）における委員会総評案を検討。

■ 今後のスケジュールについて

○ 今後のスケジュール

・５月 14 日（土）　平成 23 年度市民奨励金公開プレゼンテーション審査会　開催
・５月 18 日（水）　第３回協働のまちづくり推進委員会開催
（案件：平成 22 年度市民奨励金・協働事業の評価）
・６月４日（土）　平成 22 年度実施事業　協働のまちづくり「活動成果発表会」　開催

■ 出席者（敬称略）　※参考

・北向秀幸　委員長
・浮木隆　副委員長
・佐藤博幸　委員
・中上千壽子　委員
・奈良卓　委員
・藤村幸子　委員
・宮崎菜穂子　委員
・総合政策部長
・市民連携推進課（７名）

協働のまちづくり推進委員会（第１回）議事録

日時：平成 23 年４月 18 日（水）18:30～20:10
場所：八戸市庁本館　３階　委員会室

次第

１　開会
２　委員長あいさつ
３　総合政策部長あいさつ
４　委員・事務局職員紹介
５　平成 23 年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査
　（１）初動期支援コース（１件）
　（２）事業拡大支援コース（１件）
６　その他
　・市民提案制度市設定テーマ募集状況の中間報告について
　・今後のスケジュールについて
７　閉会

（次第５）平成 23 年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査について

○事務局より、以下の事項について確認。
・初動期支援コースについては、申請団体である「八戸緩和ケアを考える会」に委員が所属しているため、委員以外の６名で審査。
・事業拡大支援コース申請団体である「素浪人プロジェクト」が、震災の影響により申請を辞退。

○23 年度奨励金事業に対する書類審査結果をまとめた資料に基づき、事務局よりポイントを絞って説明。

○市民奨励金各コース事業（初動期支援コース１件、事業拡大支援コース１件）についてそれぞれ意見交換を実施。

○上記意見交換を基に、市民奨励金公開プレゼンテーション審査会（５/14 開催）における質問事項とコースごとの総評案を検討。

■初動期支援コース①
八戸緩和ケアを考える会 ／ 緩和ケア普及・啓発事業

■事務局
・全体的にプラスの意見が多く、高い点数を獲得している。特に、独創性の項目が最も高い点数となっていた。
・評価されている点としては、緩和ケアの普及・啓発といった新しい分野に熱意を持って取

り組んでいる、市民の福祉向上につながる、制約された状況のもと自身が取り組むことが可能な内容や取り組むべき内容を十二分に工夫して実践しようとしている、といった意見があげられた。

・熱意は感じられるが、１人で動いている感があるのは否めないといったマイナス意見もあった。

■委員

・正直なところ、緩和ケアというものを全く知らなかった。事業計画を見て、こういう活動をやっているということに感心した。

・そういう人がまだまだ多いと思うので、有効な活動になるのではないだろうかという意味で、高い点数を付けた。

■委員

・（奨励金の書類選考について）初めての経験だったので、何を基準とすればよいのかわからず、皆さんよりも厳しく採点してしまったようだ。

・団体の活動場所（まちの駅内）を提供している関係で、団体の活動の様子をいつも見ている。

・とてもよい活動をしているが、１人の方が頑張っているという印象があり、その部分が審査をする上で引っかかった。

・とてもよい活動であるし、活動場所を提供しているため、タオル帽子を被らなければならない方々の声も直に受け止めている。絶対に続けて欲しいと実感している。

・初動期なのでこれでよいのかもしれないが、これまでの事業からのステップアップという部分について、どのように判断すればよいのかわからなかった。他の委員の皆さんにアドバイスをいただきたい。

・初動期なのでそこまで考えなくてもよいのか、選考する場合の考え方について、皆さんからお聞きしたい。

■委員

・ステップアップしているかどうかは、団体の概要書によるこれまでの活動の経過実績と、今の活動計画との比較という視点から見ることができる。

・これまでの活動を振り返りながら、2011 年度に活動を大きくしていくということが事業計画の中から読み取れる。そこからステップアップしているかについて判断している。

■委員

・初動期の団体は活動資金が少ないので、予算的な部分での支援のほか、活動を広げていくためのサポートをすることでまずは３年間継続して欲しいという考え方がある。団体の活動が止まらないようにして支援するというのが、まずは初動期支援コースの目的であると考えている。

・そういった意味では、先ほどの意見にあった、１人で活動しているというのは、心配なところである。活動を広げていくための支援が必要なのかなというところである。

・ステップアップというのは、内容なのか、規模なのか、人数なのかというところもあるが、活動が止まってしまわないように、３年で止まらないようにしてあげるというのが大きな趣旨だと思う。

■委員

・緩和ケアに関してこのような取り組みを進めておられる方がいらっしゃることを知らなか

ったため、企画書を読んで感激した。

・自発性と公益性において、いくつかマイナス評価の部分もあるが、このような取り組みは今後とも重要であり、続けることが望ましい事業である。

・公の場で取り上げ、公のお金を付けることによって、１人でも２人でも賛同者が増え、活動の範囲が広がり、盛んになることが期待される。奨励金事業として十分に値する事業である。

■委員

・もし自分の立場だったらどうなのかと考えたときに、やはりこれからこのケアというものはとても必要であり、私自身もこういうことで身内を亡くしたので、こういうことが周知されれば協力したい。これから必要なことだと思う。

■委員

・初動期なので、今やっていることを少しステップアップするのはよいと思うが、やり過ぎると疲れてしまって、活動を続けることが厳しくなってくる。ただ、内容的に問題は感じていない。

・広報誌を年３回発行するとあるが、広報誌を発行するのがだんだん苦痛になってくるというのが一般的で、当初は年１～２回くらいがちょうどよい。あまり無理をしないで頑張っていただきたい。

・事業収支予算について、会員が 101 人であるのに対し、会費は 70 人で掛けているのはなぜだろうか。

・登録はあるが、実際に会費を払っていない会員がいるためなのか、そこの数が合わない。

■委員

・100 人の会員がいるのに、1 人が動いている感じであるということに違和感がある。

・会員 100 名の方はどのような形で参加されているのか。

■事務局

・実際に 100 人分の会費を集められていなくて、確実なのは 70 人だということである。

■委員

・事業収支予算書について、1000 円×５名×12 回の内容がよく見えない。帽子キット代とは何か。

■事務局

・タオル帽子講習会を毎月第３土曜日に開催している。トータルで 12 月あって 12 回、１回あたりの参加者が５名ということである。

■委員

・1 回あたりの参加者が５名のみということか。

■事務局

・そのように見込んでいる。キット代というのは、タオル帽子を作る際の裁縫道具とか、型紙とか、そういうものを全部ひとまとめにしたものを 1,000 円で購入していただいて、その分の収入がこの 60,000 円ということになる。

■委員

・実際は講習会に 20～30 名は来ているようなので、この５名の根拠がわからなかった。

■事務局

・申請時より参加者が増えているという話は聞いている。

■委員

・緩和ケアの講習会があるとか、そういった周知はどのような方法で行っているのだろうか。

・もう少しわかりやすく周知すれば、もう少し活動が広がると思う。

■委員

・（経費に占める）印刷代のウエイトが大きい。（部数は）400 部か。

■事務局

・白黒とは全然見栄えが違うということで、どうしてもカラー印刷にしたいということである。

・1 回あたりの発行部数は 400 部である。

■委員

・カラー印刷ということもＰＲの一つの方法である。

・会員が 101 人で発行部数はその４倍の 400 部ということで、いろいろな周知方法があるが、この団体はこういう形でやりたいという気合いを感じる。

■委員

・最終的に緩和ケアの内容が広がらなければ、意義を感じないだろうし、私も八戸で緩和ケアの活動をやっている団体があるのは、今回の事業提案で初めて知った。

■委員

・広報誌は、会員に見てもらうという考え方で作成しているのか。

■事務局

・会員だけでなく、いろいろなところに配布している。まちの駅、ホテル、新聞社等、さまざまなところに配布している。

・他の周知という点では、ボランティアフェスティバルに参加して、活動の PR をしているようである。

＜質問項目＞

〇現在の会員はどのような経緯で集まった方々か。また、会員の皆さんは団体の活動へどのような形で参加しているか。

〇会員以外の方への活動の周知はどのように行っているか。

〇広報誌はどのようなところに配布しているか。

初動期支援コース総評案の検討

★初動期支援コース総評案★

・現在はまだ「緩和ケア」に対する認知度が一般的に浸透していないが、今後はこのようなケアを必要とする方が増加するものであると思われることから、必要な活動であるといえる。

・活動を始めて 1 年という若い団体なので、初動期支援コースの奨励金を活用し、より多くの方々へ活動の周知を図ると共に、新たな賛同者の増加を目指して欲しい。

・ぜひ、3 年以上活動を継続し、次のステップアップにつなげていただきたい。

事業拡大支援コース①
柏崎地区安全パトロール協議会／
柏崎地区住民と子ども達を危険から守る地域安全パトロール活動支援の拡大

■事務局説明

・評価される点としては、地域住民によるさらなる積極的な参加が期待できる、ジャンパー等の購入により組織基盤を図ることで、子どもたちの安全を一定程度確保できる、パトロール車を増やすことで地域への貢献度が上がる、新たに広報紙を発行する点がよいといった点があげられていた。

・反面、似たような活動が実施されていると思われる、学校や行政との協働の部分が見えて来ない、ジャンパー購入のための申請のようにみえるといったマイナス意見もあった。

■委員

・柏崎小学校の移転によって、学区が変わってくるのか。

■事務局

・多少変更になると思う。

■委員

・小中野の一部地域も学区に入ってくるだろう。そういう意味で、パトロールの範囲も広くなるということだと解釈していた。

・パトロール車が７台、もっと多ければいいのだろうが、町内会から 10 万円の補助をいただいているし、ＰＴＡと連携しなければ下校時間などが分からないので、その辺については、これまでも活動されてきているので、連携が取れているのではないか。

・パトロールの範囲が広がることにより、さらに連帯感が欲しいということで、ジャンパーを新しく作るということになったのだろうと思う。

■委員

・協議会のメンバーには、防犯協会や交通安全協会などの団体の方も含まれているが、防犯協会なら防犯協会、交通安全協会なら交通安全協会がそれぞれ予算を持って、同じような活動を既にしているのではないかと感じた。

・それぞれの団体の活動と、この協議会の活動の違いは何か。これまでにもすでにやられている活動なので、そういったところの調整はできているのかもしれないが、どのように調整されているのかについて疑問に感じた。

・例えば、市川地区ではこういった協議会のような形で、交通安全協会はいつどこを回る、防犯協会はいつどこを回るといった調整はするが、その場で誰が何回まわりましょうというような調整はやっていない。柏崎地区ではどのように調整されているのだろうか。

■事務局

・申請時の話では、防犯協会等の活動と協議会がやっている活動とで、一部重なる部分はあるかもしれないということである。

・防犯協会もパトロールをやっている、協議会でもやっているということで、少し分かりづらい部分がある。

・具体的にどのように違うのかという部分は、団体に確認しなければ分からない状況である。

■委員

・ちなみに、他地区では防犯協会や安全パトロール協議会のような団体の人は、同じ人が兼ねていたりするものだろうか。

■委員

・（市川地区では）兼ねていない。

■委員

・交通安全協会や交通機動隊は交通指導、防犯協会はパトロールと、委員もおっしゃっている通り、巡回に対するその地域ごとのやり方がある。柏崎地区ではこういうスタイルだというようにしか理解できない。

・例えば、交通安全協会は通学時、特に新１年生が小学校に入った時に、徹底して１学期に重点的にパトロールをやって、青少年生活指導協議会は夏休み・冬休みに人を張り付けて、夜の巡回をするというように、いろいろと団体で棲み分けをしている。

・防犯協会は、例えばお祭りがあったときに他校との喧嘩がないよう巡回したり、もちろんＰＴＡもそのような活動をしていると思うが、そういう棲み分けしている。

・柏崎地区ではこの協議会がその辺の調整をしているのかなと思ってみていた。

・会員 24 名というのは申請時のメンバーで固定しているものではなく、おそらく変則的なメンバーだろう。

・中学校の進路指導委員会とか何人、小学校の校外指導委員会から何人ということだろう。

■委員

・保険は 24 名にかけているが、その人に対してかけているかどうかはわからない。

■委員

・保険はその人にしか効かない。毎年この 24 人のメンバーは変わっているのだろうと思う。ＰＴＡに推薦してもらって、今年は誰だとか、おそらくそういうものだろう。

■委員

・予算案の繰越金額について気になるというか、これは何か意図があるのかもしれないが、繰越にしては多いのではと思う。

・それから、活動保険はこんなに高いものか。これは 1 年分の金額なのか。

■事務局

・民間の保険会社の見積りをいただいた。それによってこの単価を決定したということである。

■委員

・予算だからということだろうか。この辺が少し気になった。

■委員

・民間の保険とそうでないものだと、違いがあるのだろうか。

■委員

・ボランティア活動保険の場合は、１人あたりの掛金が 280 円になっている。

・掛金 800 円ということであるが、民間でもいろいろな保険があるので、このぐらいの金額にはなるだろう。

■事務局

・スポーツ安全保険というもので、プランＡ１で年額１人あたり 800 円というものである。

■委員

・スポーツ安全保険は、スポーツ少年団の子どもとか、その指導者向けにやっているので、Ａ１タイプのプランが一番安い。大人が入れるものである。

■事務局

・Ａ１には地域活動も含まれるということで、その金額にしているようだ。

・今も実際にこの保険に入っているということで、その資料をいただいている。

■委員

・類似の活動をする他の団体との活動内容の重複や棲み分けが問題であるといった流れになっているが、もし、このような子どもたちの安全を守るという活動が、活動の棲み分けを含めて、組織的に整備された形になされていないのであれば、この活動をこの委員会である程度高く評価して認めることで、組織的に子どもたちの安全を守るという動きに発展されるということが期待されるのではないか。

・この活動自体はよい事だと思う。

■委員

・巡回活動をするためには、ジャンパーを着なければならないのか。

・私の地域では、防犯、交通安全協会、校外指導員など、学校や地域、町内会を含めてそういう組織を作って、反射板がついた腕章を付けたり、車に「防犯中です」といったステッカーを貼って、地域の父兄が動いている。

・それほどお金をかけなくても出来るのではないかなというイメージを持った。

■事務局

・さきほど委員からもお話があったが、団体としては、やはりみんなで同じジャンパーを着ることによって、連帯感が深まるのではないかということ、子どもたちにとっても、あの人たちは協議会の人だという分かり易さもあるかなという話をしていた。

■委員

・ジャンパーが夏物か冬物かでは金額等が異なるので、この部分をもう少し検討された方がいいのではないか。

■委員

・先日、新しい柏崎小学校の建物が建つ場所や周辺を見てきたが、空き地が多かった。

・これは、防犯の面に力を入れなければならないのではないかと感じた。

・今の場所からは離れた方向に移ってしまうので、学区が変わるということで、子どもたちも不安な所もあると思う。

・こういう取り組みが必要だが、やはりジャンパーの件が気にかかる。

■委員

・ジャンパーは新規で購入するということだろうか。

■事務局

・今まではなかったというようなお話をしていた。今回が初めての購入である。

■委員

・ここでジャンパーの購入が認められれば、他団体からも次々ジャンパー購入のための申請が来る可能性があるという気もする。

■委員

・ジャンパーのサイズはどうしているのだろうか。全てＬサイズにするのだろうか。

■委員

・Ｌサイズにして、貸して、返してもらうしかない。

・24 人の組織編成だから、小学校６年生が卒業したらメンバーが変わってしまうので、それしかない。

■委員

・腕章だけの場合よりもインパクトが違う。

・ジャンパーを着ていると外から見ても、遠くから見ても分かるので子どもたちが安心できるのではないだろうか。

■委員

・柏崎地区は安全、安心なまちづくりに取り組んでいると言われるようになってきた。平成 18 年に作っている団体で、５～６年間やってきた実績はある。

■委員

・車で巡回するのなら、ジャンパーの使い方はどうなるのか。

■事務局

・車での巡回のほか、横断歩道脇での児童の見守りなどもやるというようなことだ。

■委員

・そうだとすれば、柏崎地区には黄色のジャンパーがあるはずだ。

■事務局

・団体では、今までなかったというお話をしていた。

■委員

・事業収支予算書について、繰入金が 25,050 円とあるのは何だろう。

・この予算書の他に会計があって、この予算書は特別会計ということだろうか。

・同じく事業収支予算書の支出の部で、奨励金対象外だが、備品購入費 40,000 円として、パトロール用品保管庫と書いているが、どこに置くものだろうか。

■事務局

・キャビネットのようなもので、公民館に置いて団体の書類を入れたり、この事業以外にも使うようだ。

■委員

・倉庫かなとも思ったが、40,000 円だからキャビネットだろう。

■委員

・協議会だよりを新規発行するということだが、年３回発行が目標ということだろうか。

■事務局

・年３回ということである。

■委員

・新しい学区になるということで最初に１回、その後３ヶ月ぐらい経ってからの活動状況として１回、その他季節柄など、いろいろと計画を立てて発行するのだろうか。

■事務局

・発行月をなぜ５月・７月・11 月にしたかという理由は聞いていない。

■委員

・おそらく休みに入る前とかという理由があるかもしれない。

■委員

・夏休み前の注意喚起のためとか、冬休みを含めて、休み前ということだろう。

■委員

・広報誌の発行自体には何ら異論はないが、発行する際にはその目的やプランを立てて発行していただきたい。

・内容としては、危険防止に関する各種情報掲載や、ボランティアの募集ということであるが、ボランティア募集もしたいということだろうか。

■事務局

・ボランティア募集がメインというわけではないが、そういう募集の情報なども入れていきたいというような話はしていた。

・あくまでも危険防止や交通安全についての情報をメインにしたような内容とのことである。

■委員

・今年発行が必要だということで、申請されたのだろう。

■事務局

・さきほど通学路の変更についてのお話があったが、まだ通学路のコースがはっきり決まっていないようだ。

・決まり次第、危険個所の確認を協議会としてやっていきたいというお話であった。

■事務局

・柏崎小学校の移転新築にあたり、決定するまでに地域でさまざまな協議がなされてきた。私も当時協議の場に関わっており、その場に参加させていただいていた。

・やはり地域の方々は、学校の場所が現在地から離れてしまうことで、子どもさんたちの安全安心の確保が非常に心配だということが、その当時から地域の課題になっていた。

・子どもたちを巻き込んでの地域コミュニティのあり方についても、どのようにあるべきかが当時から課題になっていたということをご参考までに申し上げたい。

■委員

・学校の位置が変わると同時に、地域コミュニティとしてもアクションを起こさなくてはならないということが出てくる。

■事務局

・移転を考えた段階から、子どもたちの安全面から見て、この場所でいいのかという部分があり、地域全体として課題になっている部分であった。

・地域コミュニティとして、新しい学校ができることによって何が出来るのかということを考えていかなければならないという意識を持っていらっしゃるようである。

■委員

・学校が動くことによって、バスでの通学を真剣に考えなければならないような学区となるのか。柏崎新町やその周辺からも、移転先のところまで通わなければならないということだろうか。

・今の柏崎小学校は中間地点にあったが、端から端に通うということになる。

■委員

・今でもバスで通っている子はいる。

■委員

・今ある学校側の人は、反対に八戸小学校に行くことになるかもしれない。

・学校にいろいろと複雑な事情が出てくるから、一概には言えない。

■委員

・この活動はとても大事だし、今後さらに手を広げて活動をしてもらわなければならないかなと今感じた。

■事務局

・それから、移転新築について話し合いをされている時にも話題に出ていたが、この学区は共稼ぎの方が多い地域だということで、学校が終わった後の安全面、例えば子どもを預かってくれる仲良しクラブなどへの需要がすごく増えてきているという話があった。

・日中親御さんがいない家庭の子どもたちが、学校の場所が変わり、新しい環境になるという点への心配について、たくさんお話が出ていたかと記憶している。

■委員

・ジャンパーや帽子の購入について、昨年度の奨励金事業であるマラソン大会の事業提案時は、見積書が付いてきていた。今回も見積りをもらっているか。

■事務局

・見積書はいただいている。

■委員

・この活動を 24 人で実際にやっているとのことだが、かなり無理をしてやっているのではないだろうか。

・24 人にこだわらず、もっと協力者を増やしていきましょう、その増えた分に対応できるようにジャンパーを買いましょうという流れの方がよいのではないかと個人的には思う。

■委員

・通学指導などは交通安全母の会がやっていたりするので、24 人というのは青色回転灯をつけた車に乗っているメンバーという気がする。

・もっと他にも、安全指導をしている人たちがいるはずである。

■委員

・他にも活動している人がいると思う。いなければやっていけない。その辺について違和感がある。もっと協力者を増やしましょうという活動計画のほうがよい気がする。そちらを前面に出した方がよいのではないか。

■委員

・６台だから、４人乗って６台×４人で 24 人ということだろうか。

■委員

・それにしても、その人たちが週３回やっているならかなり大変だ。

■委員

・青色回転灯車を運転するためには、半日程度の講習会をやらなければならない。

■委員

・もし、ジャンパーをすでに持っているのであれば、新しく増えたメンバー分のジャンパーが欲しいということなら受け入れやすい。

・今いる 24 人に対し、既存のものが古くなったから新しいジャンパーを購入するという考え方なのか。どちらなのかというのが疑問である。

■委員

・やっていることはよいことだが、パトロールの人数の問題であるとか、奨励金がほとんどジャンパーに消えてしまうという点が目についてしまう。

・やっている活動内容がよいから、連合町内が 10 万円負担しているのだろう。

■委員

・活動自体がよいし、応援したいが、何か無理しているような気がする。もう少し何かやれないのかと思う。

・ジャンパーの新規購入というのは、新メンバーを対象にしているのか、今活動している人たちのものをリニューアルするということかについてお聞きしたい。

＜質問項目＞

○安全パトロール協議会の構成団体の中に、類似した活動をしていると思われる団体（交通安全協会、防犯協会等）が含まれているが、これらの団体の活動と協議会の活動の棲み分けはどのようになっているか。

○ジャンパーの新規購入について、これは既存のメンバーが着用するために必要なものか、あるいは新規で協力して下さる方を募集し、新しいメンバーが着用するためのものか。

事業拡大支援コース総評案の検討

★事業拡大支援コース★

・申請団体は、これまでにも自発的に安全パトロールを行っている団体であり、地域の安全保持に貢献している。

・今回の事業拡大は、柏崎小学校の移転により従来の通学路が広範囲に拡大することに伴うものであり、子どもたちや保護者の不安を取り除き、地域ぐるみで子どもたちの安全を守ろうという、大変重要かつ、素晴らしい活動である。

・新規事業として発行する広報誌を活用し、ボランティア募集や地域への活動周知を行うことで、より多くの方に協力していただき、負担のないように活動を継続していただきたい。

・安全パトロールの活動によって得られる地域の諸団体との連携を、他のコミュニティ活動にも活かして欲しい。

（次第６）その他

◆市民提案制度市設定テーマ募集状況の中間報告について

・2/1～2/28 までの第１期募集期間中に、以下２件の応募があった。

・現在、第２期(4/4～4/28)募集期間中である。

①元気を応援する企業との「健診受診率向上＆健康運動・心と体のリフレッシュ推進」モデル事業（仮称：元気応援！お得(オトク)―ポン(ー ポン)事業）　提案課：国保年金課

②犬のフン放置に警告カード「イエローカード作戦」（モデル事業）提案課：環境保全課

◆今後のスケジュール

・５月 14 日（土）　平成 23 年度市民奨励金公開プレゼンテーション審査会 開催

・５月 18 日（水）　第３回協働のまちづくり推進委員会開催
（案件：平成 22 年度市民奨励金・協働事業の評価）

・６月４日（土）　平成 22 年度実施事業　協働のまちづくり「活動成果発表会」 開催